

優秀賞

高校生部門

須磨学園高等学校 1年

池野 竜正

夢は叶う

一つの夢を追いかけてここまで来た。

小学生の頃のぼくは、色々な事に興味があり、たくさん習い事をしてきた。小学四年生の時、地元で陸上クラブができる事になり、いとこの紹介で入会した。

週に一度土曜日に、一時間程度身体を動かすといった内容のクラブで、六年と五年の女子が一人ずつ、四年の男子がぼくを入れて二人。たった四人でのスタートだった。教えて下さる監督やコーチは年配の方ばかりだったので、「本当にこの人達が指導できるのかな」と心配していたが、いざ走り出すと、息のあがるぼくの隣を、かけ足で、ニコニコしながら、しゃべりながらコーチが付いてきた。

火がついた。「次はコーチに勝つ!!」

気付けばぼくは陸上に夢中になり、週に一度の土曜日が待ち遠しくて仕方がなかった。この年、ぼくは地元のマラソン大会ではじめて一位をとった。その年の作文には「将来立派な陸上選手になる。夢は叶う」と書いた。

ぼくは今、高校生になり、陸上の強豪校にいる。

十五歳といえば、一般的には『青春を謳歌する』年頃だろう。でもぼく的生活は、『走る事』で埋め尽くされている。たまには友達と遊んだりもするが、食べる物、遊ぶ場所、遊ぶ時間、寝る時間を考えて行動し、その中で精一杯遊ぶ。という風になる。これ以上の遊びはぼくには必要がない。これで十分だ。『走る事』がどうやら僕の『青春』らしい。

「夢は叶う」と書いたあの頃の自分と何も変わっていない。きっとこの先も変わらないこの思いがぼくの生き抜く力だ。